



# いずみ

令和2年6月1日発行

<学校の教育目標>

かしこい子

やさしい子

たくましい子

「**チーム和泉**」

(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <<http://www.komae.ed.jp/e/izumi/>>

校長 伊藤 栄司

## 学びを活かす

校長 伊藤 栄司

分散登校の形で3か月ぶりに学校を再開することができました。1クラスを半分に分けた登校なのでいつもに比べると静かで落ち着いている感じがします。子供たちの声がどこからともなく聞こえてくるいつもの学校の姿をようやく取り戻すことができました。新型コロナウイルス感染症の拡大は学校にとっても大きな試練となりました。まだまだ我慢は続きそうですが、この3か月で学んだことをこれからの教育にどのように活かしていくか考える日々です。

### データの重要性

新型コロナウイルスのニュースが新聞やテレビで報道されるようになってから、様々な専門家が現状や今後の予測について話す姿を見ない日はありません。話を聞いていると、感染者数や陽性者率などデータを示したうえで、数字を読み解き次への行動を解説してくれる人とデータはあまり示さず大まかな方向性を示す人に分かれることに気づきました。立場や期待されている役割は人それぞれなので一概には言えませんが、データを基にした話は分かりやすく厳しい外出制限に対してもより納得できたように思います。

### 算数「データ活用領域」

データや数字をどのように読み解き、表現するかはこれからの社会で必要とされる力です。今年度から使用する算数科の新しい教科書では、グラフをかいたり読み取ったりするほかに、数字がもつ意味を考える学習が盛り込まれています。例えば、『AチームとBチームの得点の平均は同じでも、直近のデータを見ると明らかにAチームのほうが勝っている。次に勝つチームはどちらだろう?』『今までのデータをもとにジャンケンに勝つ方法を考える。』など表やグラフを注視しながら傾向や可能性を導き出します。

授業の中では、『問題を見つける→調べる計画を立てる→データを集め整理する→データを分析する→答えを導き出す』の流れを意識し学習を進めていきます。また、進めるにあたっては、教科書に書かれていることだけでなく、身近に起きている問題を題材に考えることも新しい学びの一つです。現実の世界で起きている問題を算数の世界で解決し、結果を現実の世界に戻していくイメージです。

### 他教科への応用

算数科で身に着けた力は社会科や理科、総合的な学習の時間にも発揮されます。今までも他教科でグラフや表を読み取り話し合う学習はありましたが、算数で基礎基本をしっかり身に着けることで、より詳しく学べるようになるのではないかと考えています。

多くの人が同じように理解し同じように行動するためには、根拠となる数字を示すことが大切であると新型コロナウイルス対策で学びました。変化の激しいこれからの社会を生き抜く力の一つとして計画的に指導を進めていきます。

## 6月の主な学校行事

6月の予定は状況に応じて、変更します。  
学校ホームページ等で最新の情報をご確認ください。

### 6月の来校予定日

スクールカウンセラー

今村 成子先生

1(月)、8(月)、15(月)、22(月)、29日(月)

発達・ことばの教育相談員

西川 芳子先生

17(水)

教育相談員

岩田 智美先生

9(火)、11(木)、16日(火)、18日(木)、23日(火)、  
25(木)、30(火)

心のケア

生活指導主幹

堀口 剛

新型コロナウイルスによる臨時休業が終わり、子供たちは友達との再会を喜んでいます。改めて子供同士や周りの大人との関わり合いの大切さを強く感じます。

当たり前のことが当たり前にできなかった休校期間中は、思うようなことができず、我慢をすることも多かったのではないのでしょうか。心配や不安を抱えたまま登校してくる子供もいることが考えられます。学校では「心のアンケート」を実施し心のケアに努めます。また、道徳や学級活動の時間を通して、多くの人と関わることの大切さを伝えます。安全・安心、いじめのない環境をつくり、楽しく登校できるよう指導していきます。ご家庭でも子供たちの見守りをお願いいたします。